

— 設備保全の情報共有・交流会 —

# 東北地域保全研鑽会（2025年度第1回）

<https://info-jipm.jp/f/tohoku/>

における活動レポート

- 設備保全は、“壊れた部品を交換するだけ”ではありません！  
設備をいつでもロスなく稼働させることが本来の役割。
- でも、自社だけでは行き詰ってしまうことも。。。  
困りごとの解決や、他社の取組み事例を知りたい方は、  
ぜひ、本研究会で一緒に解決してみませんか！！



工場見学の様子（2025年度第1回）

## 東北地域保全研鑽会ってなに？

「設備保全」の業務は、「設備をいつでもロスなく稼働させる」ことが本来の役割。その実現には、故障をはじめとしたロスの原因を見つけて、未然に対策を行なうことが重要です。しかしながら、自社で得た知見だけでは、なかなか対策が難しい場合も。。。。

「東北地域保全研鑽会」では、2016年より、人財育成や人財確保、設備診断技術などをテーマにして、ディスカッションや、工場の見学を実施しながら「オール東北」での交流の場となることを目指しております。

日頃の困りごとの解決や、他社の取組み事例を知りたい方は、この機会にぜひご参加いただき、参考となる情報を自社で活かしてみませんか？  
当会会員企業の方は参加無料ですので、お気軽にご参加ください



### 研究会概要

活動内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設備管理・保全に関する情報交換ならびに相互研鑽</li><li>・ 設備管理、保全、モノづくり全般について先進企業の取組み紹介</li><li>・ メンバー企業の工場見学 など</li></ul>
参加対象	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設備保全、設備管理全般の管理者およびご担当の方</li><li>・ 人材教育の企画、実施のご担当の方</li></ul>
開催頻度	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 2～3回/年を予定</li></ul>
年会費	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 公益社団法人日本プラントメンテナンス協会 会員価格：無料</li><li>・ 一般価格（上記以外）：¥33,000-/名</li></ul>

2025年度第2回の開催は、  
現在調整中です！  
開催日程・内容が決まり次第、  
WEBサイトでご案内します！

# 東北地域保全研鑽会（2025年度第1回）の活動レポート

## 研究会活動の紹介（2025年度第1回活動レポート）

テ - マ	2025年度第1回 東北地域保全研鑽会 日産自動車における“設備管理”の事例見学 ～新ライン・旧ラインにおけるTPM活動～
開 催 日	2025年9月19日（金）
開 催 場 所	日産自動車株式会社 いわき工場 （福島県いわき市泉町下川字大剣386番地）
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日産自動車株式会社いわき工場における“設備管理”の事例見学                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いわき工場の取組み紹介</li> <li>・ 工場見学</li> </ul> </li> <li>● 見学後の質疑応答、ディスカッション</li> </ul>
参 加 者	東北地域保全研鑽会 会員：28名（11社）



### 開催報告

- 2025年9月19日（金）、福島県いわき市にて、東北地域保全研鑽会（2025年度第1回）を開催しました。会場は日産自動車株式会社いわき工場。同社の製造現場を舞台に、TPM活動をはじめとした、保全活動や人財育成に関する先進的な取り組みが紹介され、参加企業間の学びと交流が深まりました。
  - 当日は、日産自動車いわき工場の工場見学が行われました。特に注目を集めたのは、「活動板」「スマートTPMライン」「マシニング道場」「TPM道場」など、工場全体で取り組んでいるTPM活動です。効率的な生産活動を維持・管理するための情報を共有する仕組みや、そのサポート体制について、参加者は強い関心を寄せていました。
  - いわき工場では、TPM活動に取り組むうえで以下4つのポイントを大切にしているそうです。
    - ・ 全員で清掃し汚れを外に出さない。360度どこから見てもクリーン/静か
    - ・ 工場全体が、TPM対象（製造だけではなく、保全も工具も物流も）
    - ・ 課題の見える化をして工場総力で解決
    - ・ 改善活動や資格取得を通じて、個人が学び成長する
- 工場内を見学すると、たしかに床や壁が汚れていたり濡れていることもなく、5Sが徹底された清潔な状態を保たれていました。



- 人財育成に関してはスキルセンターやマシニング道場など、失敗を活かして学ぶ場が整えられていました。さらに、製造部門から保全部門への留学制度もあるとのこと。計画的に留学をして保全の知識をつけ、自主保全を進めていました。
- 工場見学終了後の質疑応答では参加者からの質問が絶え間なくあがりました。特に「設備保全のあるべき姿を絵で提示していたが、現場の管理監督者が主体になって作られたものだったように思う。どうして絵で提示していたのか」という質問に対しては「それぞれの職場で必要な人材像について分かりやすいものがなかったため、現場で作成してもらいました。工場長を含めた上席者にも共有して、先を見ながら人を育てています」と回答がありました。
- アンケート結果では、満足度に関して「大変満足」「ちょうど良い」との回答が多数を占め「分かりやすい説明があって良かった」や「他工場の取り組みを現物を見ながら聞いた」や「普段あまり他社と交流できないので交流できたのが嬉しかった」など好意的な意見が目立ちました。
- 今回の研鑽会は、TPM活動を推進している工場の見学によって、実践的な学びを得る場として好評をいただきました。今後も、東北地域の連携を深めながら、保全の研鑽と人財育成を支援する場として継続的に開催していく予定です。

（記：JIPM 石橋）



東北地域保全研鑽会 にご興味ある方は、お気軽にお問合せください  
TEL：0120-451-466（または03-6865-6081） E-mail：FUKYU@jipm.or.jp